

科目 論理国語

授業時数 2 単位

履修学年 3 学年

目標 さまざまなテーマの評論文を読むことを通して、論理的、批判的な思考力と判断力、表現力を身につける。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	学校生活や身近な社会生活における様々な関わりを含みながらも社会人として活躍していく高校生が、現実の社会に必要な国語の知識や技能を他者との関わりにおいて適切に使うことができる。	論理的に考える力に加えて批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
できる 活用Ⅰ	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的、批判的に考える力を身に付けることで自分自身の思考を意識的に吟味する力をつける。	言葉の価値を認識し、読書を通して現代社会に関わる問題に幅広く関心をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
わかる 習得	他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解している。	文章や資料における情報に対し論理的、批判的に考える力が重視されることを理解する。	言葉の価値を認識し読書に親しみ自己を向上させることで、ものの見方や考え方が豊かになることを理解する。
風越高校の目指す学習者像	【信念をもつ人】 【振り返りができる人】	【コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人】 【思いやりのある人】	【探究する人】 【広い視野を持つことができる人】
評価方法	定期テスト 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	定期テスト 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	出席状況 授業態度(教材準備、発問評価、積極性)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書『論理国語』第一学習社
- ・『論理国語 学習課題集』第一学習社
- ・『大学入試 最新国語頻出問題』文英堂
- ・『新国語総合ガイド』啓隆社
- ・『新演習現代文アチーブ3四訂版』

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・評論を読み、文章の流れや語句の意味を理解したうえで、他者の意見を正確に捉えられるようにする。
- ・「言葉のトレーニング」では、グループワークを通じて、相手を意識した分かりやすい文章にする力を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	17	評論「言語が見せる世界」(野矢茂樹) 評論「いのちのかたち」(西谷 修)
	5月		
前期 期末	6月	18	評論「リスク社会とは何か」(大澤真幸) 評論「コスモポリニズムの可能性」(河野哲也)
	7月		
後期 中間	8月	18	評論「『である』ことと『する』こと」(丸山真男)
	9月		
後期 期末	10月	17	評論「現代日本の開化」(夏目漱石) 読み比べ「ジェンダー化された身体の行方」(川本玲子) 「ヒトの進化と現代社会」(長谷川真理子)
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		

科目 古典探究

授業時数 2 単位

履修学年 3 学年

目標 時代を超えた「知」として蓄積されてきた古典を通し、国際化や情報化の急速な進展を伴う社会でよりよく生きるため、教養としての古典の価値を再認識し、自己の在り方生き方を見つめ直す契機とする。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	生涯にわたり他者や社会と関わっていく社会生活全般において必要な知識や技能について理解し、それを適切に使うことができる。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
できる 活用Ⅰ	伝統的な言語文化に対する理解を深め、生涯にわたる社会生活において必要な知識や技能について理解できる。	古典に表れている、人間、社会、自然などに対する、ものの見方、感じ方、考え方の現代との類似点、相違点を理解する。	古典の中心とした文化としての言語、実際の生活で使用する中で形成されてきた文化的な言語生活、言語芸術や芸能などの価値を理解し尊重する。
わかる 習得	日常関わる社会に限らず、現実の社会そのものにおいて必要な国語の知識や技能があるということを認識する。	古典の学習を通して古典の豊かな世界に触れ、先人が何を感じて何を考えたのか、いかに生きたのかということを知る。	生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させること、古典を通して社会人として考え方やものの見方を豊かにすることへの意識ができる。
風越高校の目指す学習者像	【探究する人】 【知識のある人】	【思考できる人】 【振り返りができる人】	【挑戦する人】 【広い視野を持つことができる人】
評価方法	定期テスト 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	定期テスト 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	出席状況 授業態度(教材準備、発問評価、積極性)

■何で学ぶか【教材】

- ・教科書『精選古典探究』第一学習社
- ・『精選古典探究 学習課題集』
- ・『体系古典文法』数研出版
- ・『体系漢文』数研出版
- ・『理解を深める核心古文単語』尚文出版
- ・『新演習古典アチーブ3三訂新版』
- ・『新国語総合ガイド』啓隆社

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

- ・「古文編」「漢文編」それぞれの主要なジャンルの代表作を読む中で、当時の資料を見たり、自身の理解が深まっているか振り返る時間を設けたりするなど、古典に表れたものの見方や考え方を理解するよう順序立てた授業展開にする。
- ・教材を通し、自分の考えを広げたり、想像力を豊かにするような発問を用意し、書く活動を継続的に取り入れる。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	17	〈古文〉説話「袴垂、保昌に合ふ事」(宇治拾遺物語) 〈漢文〉逸話「鴻門之会」(史記)
	5月		
前期 期末	6月	18	〈漢文〉史話「四面楚歌」(史記) 〈古文〉随筆「雪のいと高う降りたるを」(枕草子)
	7月		
後期 中間	8月	18	〈古文〉物語「紫の上の死」(源氏物語) 評論「歌のよしあし」(俊頼髓脳) 〈漢文〉漢詩 古体の詩
	9月		
後期 期末	10月	17	〈漢文〉史記「管鮑之交」(齊太公世家・管晏列伝) 〈古文〉物語「三舟の才」(大鏡)
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		

科目 **文学総合**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **3 学年**

目標

- ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やす。
- ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
- ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深める。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	学校生活や身近な社会生活における様々な関わりを含みながらも社会人として活躍していく高校生が、現実の社会に必要な国語の知識や技能を他者との関わりにおいて適切に使うことができる。	論理的に考える力に加えて批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
できる 活用Ⅰ	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的、批判的に考える力を身に付けることで自分自身の思考を意図的に吟味する力をつける。	言葉の価値を認識し、読書を通して現代社会に関わる問題に幅広く関心を持ち、言葉を通して他者や社会と関わろうとする。
わかる 習得	他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解している。	文章や資料における情報に対し論理的、批判的に考える力が重視されることを理解する。	言葉の価値を認識し読書に親しみ自己を向上させることで、ものの見方や考え方が豊かになることを理解する。
風越高校の目指す学習者像	[信念をもつ人] [振り返りができる人]	[コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] [思いやりのある人]	[探究する人] [広い視野を持つことができる人]
評価方法	定期テスト 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	定期テスト 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	出席状況 授業態度(教材準備、発問評価、積極性)

■何で学ぶか [教材]

- ・『精選古典探究』第一学習社
- ・『精選古典探究 学習課題集』 第一学習社
- ・『ベーシックマスター 古文・漢文』Z会
- ・『古文上達 基礎編』Z会

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・さまざまなジャンルの古典を読む中で、文法や句法の重要な要素を押さえる。
- ・古典文法を特に重点的に学び、応用力をつける。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

時数		学習内容
前期中間 4月 5月 6月	17	〈古文〉物語「姥捨」(大和物語) 〈漢文〉「雑説」(韓愈)
前期期末 7月 8月 9月	18	〈古文〉物語「若紫」(源氏物語) 〈漢文〉「売油翁」(黔之驢)
後期中間 10月 11月	18	〈古文〉和歌「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」 〈漢文〉思想「孟子」 「老子」
後期期末 12月 1月 2月	17	〈古文〉日記「日本紀の御局」(紫式部日記)

科目 **表現探究**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **3 学年**

目標

- ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。
- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- ・言葉がもつ価値への認識を深め、進路に向けて読解力をつける。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	生涯にわたり他者や社会と関わっていく社会生活全般において必要な知識や技能について理解し、それを適切に使うことができる。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
できる 活用Ⅰ	伝統的な言語文化に対する理解を深め、生涯にわたる社会生活において必要な知識や技能について理解できる。	古典に表れている、人間、社会、自然などに対する、ものの見方、感じ方、考え方の現代との類似点、相違点を理解する。	古典の中心とした文化としての言語、実際の生活で使用する中で形成されてきた文化的な言語生活、言語芸術や芸能などの価値を理解し尊重する。
わかる 習得	日常関わる社会に限らず、現実の社会そのものにおいて必要な国語の知識や技能があるということを認識する。	古典の学習を通して古典の豊かな世界に触れ、先人が何を感じて何を考えたのか、いかに生きたのかということを知る。	生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させること、古典を通して社会人として考え方やものの見方を豊かにすることへの意識ができる。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人]	[思考できる人] [振り返りができる人]	[挑戦する人] [広い視野を持つことができる人]
評価方法	定期テスト 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	定期テスト 家庭学習状況(小テスト、ノート、課題提出)	授業態度(教材準備、発問評価、積極性)

■何で学ぶか [教材]

- ・『テーマ詳説 現代評論選』数研出版
- ・『リテラ 速読レッスン 文学vol.3』文英堂
- ・『ベーシックマスター国語 現代文』Z会

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・さまざまな評論文を読み、丁寧に読解し本文中の重要な問いについて考える。
- ・教材を通し、自分の考えを広げたり、想像力を豊かにするような発問を用意し、書く活動を継続的に取り入れる。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	17	評論 1 言語学とは何か 4 メディアと倫理 5 なんとなく、日本人 6 社会に生きる科学 8 群衆の生成と消滅 小説 1-8 雲を紡ぐ ほか
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	18	評論 11 感性は感動しない 12 近代化と世間 14 顔の現象学 16 集団の個への解体 小説 9-16 世はすべて美しい織物 ほか
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	18	評論 17 想像力 18 終わりなき差異化と模倣の反復小説 小説 17-24 アカシヤの大連 ほか
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	17	評論 3 活字中毒患者は電子書籍で本を読むか？ 13 千利休と蹲るということ
	1月		

科 目	地理探究	授業時数	4 単位
		履修学年	3 学年
目 標	地理的な見方・考え方を働かせ、資料を読み取り課題を追究したり活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次とおり育成することを目指す。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、世界諸地域の地域的特色や課題などを理解し、地図や地理情報システムなどを用い、調査や諸資料から地理の様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然との相互関係、系統地理的、地誌的に多面的・多角的に考察し、課題の解決に向け考察、構想する力や、説明、議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究する態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する大切さについて深める。
	できる 活用Ⅰ	世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、世界諸地域の地域的特色や課題などを理解し、地図や地理情報システムなどを用い、調査や諸資料から地理の様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめられる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然との相互関係、系統地理的、地誌的に多面的・多角的に考察し、課題の解決に向け考察、説明する力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究する態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する大切さについて学ぶ。
	わかる 習得	世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、世界諸地域の地域的特色や課題などを理解し、地図や地理情報システムなどを用い、調査や諸資料から調べ、まとめることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然との相互関係、系統地理的、地誌的に多面的・多角的に考察し、課題の解決に向け構想する力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を探究する態度を養うとともに、考察や理解を通して日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人]	[思考できる人] [広い視野を持つことができる人]	[探究する人] [バランスのとれた人]	
評価方法	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート 授業に取り組む姿勢や意欲	

■何で学ぶか【教材】

<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「新詳地理探究」帝国書院 ・資料集「新編 フォトグラフィア地理図説」東京法令出版 ・地図「詳解現代地図 最新版」二宮書店(昨年度からの継続) ・「新地理の研究」啓隆社(昨年度からの継続) ・「ニューコンパスノート地理」東京法令出版

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

<p>「地理総合」の学習成果を踏まえ、現代世界における地理的な諸事象を主な学習対象とし、その空間的な規則性、傾向性や関連する課題の要因を捉えるなどの学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識とともに、系統地理的な考察の手法を身に付ける。また、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を身に付ける。</p>
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月		第1章「自然環境」 1. 地球環境と人間 2. 地形 3. 気候 4. 日本の自然環境 5. 地球環境問題
	5月 6月	30	第2章「資源と産業」 1. 農林水産業 2. 食料問題 3. エネルギー・鉱山資源 4. 資源・エネルギー問題 5. 工業
前期期末	7月		第2章「資源と産業」 6. 第三次産業
	8月 9月	30	第3章「交通・通信と観光、貿易」 1. 交通・通信 2. 観光 3. 貿易と経済圏 第4章「人口、村落・都市」 1. 人口 2. 人口問題 3. 村落と都市 4. 都市・居住問題
後期中間	10月		第5章「生活文化、民族・宗教」 1. 衣食住 2. 民族・宗教と民族問題 3. 国家の領域と領土問題
	11月	40	第2部「現代世界の地誌的考察」 1. 地域区分 2. 中国 3. 韓国 4. ASEAN諸国 5. インド 6. 西アジアと中央アジア 7. 北アフリカとサハラ地域
後期期末	12月		第2部「現代世界の地誌的考察」 8. EU諸国 9. ロシア 10. アメリカ合衆国 11. ラテンアメリカ諸国 12. オセアニア地域
	1月 2月	40	第3部「現代世界におけるこれからの日本の国土像」 まとめと演習

科目 **日本史研究**

授業時数 **3 単位**

履修学年 **3 学年**

目標 2年次までの学習成果を踏まえ、それらと関連付けて歴史事象を理解するとともに、推移、比較、相互の関連などに着目して多面的・多角的に考察し、他国や他国の文化を尊重する力を涵養する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	歴史事象について、地理的条件や世界の歴史と適切に関連付けて、総合的に理解することができる。諸資料から様々な情報を適切に調べ、効果的にまとめることができる。	歴史事象の意味や文化の特色などを、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察することができる。歴史に見られる課題を発見して構想したり、それを効果的に説明することができる。	歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、他国や他国の文化を尊重する態度が身についている。
できる 活用Ⅰ	歴史事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けて、総合的に理解することができる。諸資料から様々な情報を適切に調べ、まとめることができる。	歴史事象の意味や文化の特色などを、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して考察することができる。歴史に見られる課題について構想したり、それを効果的に説明することができる。	歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を探究しようとする。考察や理解を通して、他国や他国の文化を尊重する態度が身についている。
わかる 習得	歴史事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けて、理解することができる。諸資料から様々な情報を調べ、まとめることができる。	歴史事象の意味や文化の特色などを考察することができる。歴史に見られる課題について構想したり、それを説明することができる。	歴史の展開に関わる諸事象について、課題を探究しようとする。考察や理解を通して、他国や他国の文化を尊重する重要性を理解している。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人]	[思考できる人] [バランスのとれた人] [広い視野をもつことができる人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期テスト 課題 学習に取り組む姿勢や意欲	定期テスト 課題 学習に取り組む姿勢や意欲	定期テスト 課題 学習に取り組む姿勢や意欲

■何で学ぶか【教材】

教科書: 詳説日本史探究(山川出版社)
副教材: 山川 ビジュアル版日本史図録(山川出版社)

■どのように学ぶか【授業の方法/学び方】

- ・各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察させる
- ・既習内容との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもてるようにする
- ・年表や地図、その他の資料を積極的に活用する
- ・時代的背景との関連、外来文化の変容や発展の過程などに着目させる

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	27	近代国家の展開 ・日清・日露戦争と国際関係 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制
	5月 6月		近代の産業と生活 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達 ・市民生活の変容と大衆文化
前期期末	7月	27	恐慌と第二次世界大戦 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦
	8月 9月		占領下の日本 ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和
後期中間	10月	26	高度成長の時代 ・55年体制 ・経済復興から高度経済成長へ
	11月		激動する世界と日本 ・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の変容
後期期末	12月 1月 2月	25	◎通史の流れの確認と現代の展望,共通テストや受験に向けた演習

科 目	世界史研究	授業時数	3 単位
		履修学年	3 学年
目 標	社会的事象の歴史的な見方や考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適正かつ効果的に調べまとめる技術を身につけられるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目する。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。
できる 活用Ⅰ	世界の歴史の大枠と展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら総合的にとらえて理解することができる。	世界の歴史の大枠と展開に関わる史実から、それらを総合化し、推論して史像を形成できるような能力を養う。また、それらを活用して多面的、多角的に考察し、考えたことを表現できる力を育成する。	多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民として自覚的な態度を養う。
わかる 習得	諸事象の本質をその歴史的な形成展開の過程を実証的な考察によって捉える歴史的な見方や考え方を身につけ、歴史的な思考力の育成を図り、国家・社会を形成する資質と能力を養う。	歴史にみられる課題を把握し、解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする能力を養う。	我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
風越高校の目指す学習者像	[広い視野をもつことができる人] [知識のある人]	[思考できる人] [バランスのとれた人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート	定期考査 課題レポート 学習に取り組む姿勢や意欲

■何で学ぶか [教材]

<ul style="list-style-type: none"> ・「詳説世界史」 山川出版社 ・「アカデミア世界史」 浜島書店 ・「新世界史研究ノート応用編」 啓隆社

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

<p>産業革命から現代までの通史を学ぶための授業を行う。思考力、判断力、表現力を養う前に知識を獲得させ、歴史的な事象の世界的な諸地域がどう形成され、変化してきたのか、現代との繋がりという大きな問を掲げながら、諸地域や時代を具体的に展開し背景や因果関係が理解できるようにする。そのために、教科書に設けられている問を積極的に活用し歴史を多角的、多面的に捉えられるようにしていく。</p> <p>知識、思考力、表現力、主体性を図る課題レポートを課す。</p>
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月		III 諸地域の結合と変容 12章 産業革命と環大西洋革命 ・産業革命 ・フランス革命とナポレオンの支配 ・アメリカ合衆国の独立と発展 ・中南米諸国の独立
	5月	27	13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ・ウィーン体制とヨーロッパの政治、社会の変動 ・列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 ・アメリカ合衆国の発展
	6月		・19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄
前期 期末	7月		14章 アジア諸地域の動揺 ・西アジア地域の変容 ・南アジア、東南アジアの植民地化 ・東アジアの激動
	5月	27	15章 帝国主義とアジアの民族運動 ・第2次産業革命と帝国主義 ・列強の世界分割と列強体制の二分 ・アジア諸国の変革と民族運動
	9月		16章 第一次世界大戦と世界の変容 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア、アフリカ地域の民族運動
後期 中間	10月		17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序 ・世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 ・新しい国際秩序の形成 ・第二次世界大戦
	5月	26	IV 地球世界の課題 18章 冷戦と第三世界の台頭 ・冷戦の展開 ・冷戦体制の動揺 ・第三世界の台頭とキューバ危機
	11月		19章 冷戦の終結と今日の世界 ・産業構造の変容 ・連戦の終結 ・今日の世界
後期 期末	12月		問題演習
	5月 2月	25	

科目	政治経済（文系）	授業時数	3 単位
		履修学年	3 学年
目標	・社会における政治や経済の機能を理解し、主体的な社会形成者としての自覚をもつ。 ・政治や経済の仕組みを学び、人々の生活にどのように関わっているかを理解することを通して現代世界における諸課題を考察する。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	現実社会の諸課題について探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解することができる。諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切に調べ、効果的にまとめることができる。	概念や理論を活用して多面的・多角的に社会課題を把握することができる。社会課題の解決について根拠をもって構想する、構想したこととの妥当性を議論する、公正に判断することができる。	現実社会の諸課題について主体的に構想しようとする。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚がある。
できる 活用Ⅰ	現実社会の諸課題について探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解することができる。諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切に調べ、まとめることができる。	概念や理論を活用して多面的・多角的に社会課題を把握することができる。社会課題の解決について根拠をもって構想する、構想したことについて議論する、公正に判断することができる。	現実社会の諸課題について主体的に構想しようとする。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の形成に、役割を果たそうとする自覚がある。
わかる 習得	現実社会の諸課題について探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解することができる。諸資料から、社会の在り方に関わる情報を調べ、まとめることができる。	概念や理論を活用して社会課題を把握することができる。社会課題の解決について構想する力、構想したことを議論し判断する力が身についている。	現実社会の諸課題について主体的に構想しようとする。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会の形成に、役割を果たそうとする自覚がある。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人]	[思考できる人] [バランスのとれた人] [信念をもつ人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題	定期考査 課題	定期考査 課題 学習に取り組む姿勢や意欲

■何で学ぶか【教材】

教科書: 高校政治・経済(実教出版) 副教材: 政治・経済資料2026(とうほう)、Winning COM.-PASS公共・政経の整理と演習2026(とうほう)

■どのように学ぶか【授業の方法/学び方】

政治や経済について、日本だけでなく世界についても学ぶための授業を行う。思考力、判断力、表現力を養う前に知識を獲得させ、政治や経済のシステムがどう形成され、変化してきたのかという背景や、原理が理解できるようにする。そのために、教科書に設けられている問を積極的に活用し政治や経済を多角的、多面的に捉えられるようにしていく。 知識、思考力、表現力、主体性を図る課題を課す。
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	27	資本主義経済と社会主義経済、経済活動と経済主体、市場経済の機能 経済成長と景気変動財政のしくみ、金融機関の働き、物価の動き
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	27	日本経済の歩み、中小企業、日本の農業の現状、消費者問題、労働問題 社会保障制度、国際経済、為替相場
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	26	国際経済機関の役割 国際経済の諸問題、資源・エネルギー問題、政治と法の機能、人権保障 国際政治、国際社会、国際連合 安全保障、国際紛争・難民問題、国際平和
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	25	議会制民主主義、日本国憲法、基本的人権、国会、内閣 裁判所、地方自治、政党政治、世論と現代社会 まとめと問題演習
	1月		
	2月		

科目	政治経済（理系）	授業時数	2 単位
		履修学年	3 学年
目標	・社会における政治や経済の機能を理解し、主体的な社会形成者としての自覚をもつ。 ・政治や経済の仕組みを学び、人々の生活にどのように関わっているかを理解することを通して現代世界における諸課題を考察する。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	現実社会の諸課題について探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解することができる。諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切に調べ、効果的にまとめることができる。	概念や理論を活用して多面的・多角的に社会課題を把握することができる。社会課題の解決について根拠をもって構想する、構想したこととの妥当性を議論する、公正に判断することができる。	現実社会の諸課題について主体的に構想しようとする。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚がある。
	できる 活用Ⅰ	現実社会の諸課題について探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解することができる。諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切に調べ、まとめることができる。	概念や理論を活用して多面的・多角的に社会課題を把握することができる。社会課題の解決について根拠をもって構想する、構想したことについて議論する、公正に判断することができる。	現実社会の諸課題について主体的に構想しようとする。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の形成に、役割を果たそうとする自覚がある。
	わかる 習得	現実社会の諸課題について探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解することができる。諸資料から、社会の在り方に関わる情報を調べ、まとめることができる。	概念や理論を活用して社会課題を把握することができる。社会課題の解決について構想する力、構想したことを議論し判断する力が身についている。	現実社会の諸課題について主体的に構想しようとする。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会の形成に、役割を果たそうとする自覚がある。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人]	[思考できる人] [バランスのとれた人] [信念をもつ人]	[探究する人] [振り返りができる人]	
評価方法	定期考査 課題	定期考査 課題	定期考査 課題 学習に取り組む姿勢や意欲	

■何で学ぶか【教材】

教科書: 高校政治・経済(実教出版) 副教材: 政治・経済資料2026(とうほう)、Winning COM.-PASS公共・政経の整理と演習2026(とうほう)

■どのように学ぶか【授業の方法/学び方】

政治や経済について、日本だけでなく世界についても学ぶための授業を行う。思考力、判断力、表現力を養う前に知識を獲得させ、政治や経済のシステムがどう形成され、変化してきたのかという背景や、原理が理解できるようにする。そのために、教科書に設けられている問を積極的に活用し政治や経済を多角的、多面的に捉えられるようにしていく。 知識、思考力、表現力、主体性を図る課題を課す。
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	資本主義経済と社会主義経済、経済活動と経済主体、市場経済の機能 経済成長と景気変動財政のしくみ、金融機関の働き、物価の動き
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	日本経済の歩み、中小企業、日本の農業の現状、消費者問題、労働問題 社会保障制度、国際経済、為替相場
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	国際経済機関の役割 国際経済の諸問題、資源・エネルギー問題、政治と法の機能、人権保障 国際政治、国際社会、国際連合 安全保障、国際紛争・難民問題、国際平和
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	議会制民主主義、日本国憲法、基本的人権、国会、内閣 裁判所、地方自治、政党政治、世論と現代社会 まとめと問題演習
	1月		
	2月		

科目 **国際政治経済**

授業時数 **3 単位**

履修学年 **3 学年**

目標
 ・社会における政治や経済の機能を理解し、主体的な社会形成者としての自覚をもつ。
 ・政治や経済の仕組みを学び、人々の生活にどのように関わっているかを理解することを通して現代世界における諸課題を考察する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	現実社会の諸課題について探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解することができる。諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切に調べ、効果的にまとめることができる。	概念や理論を活用して多面的・多角的に社会課題を把握することができる。社会課題の解決について根拠をもって構想する、構想したことと妥当性を議論する、公正に判断することができる。	現実社会の諸課題について主体的に構想しようとする。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚がある。
できる 活用Ⅰ	現実社会の諸課題について探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解することができる。諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切に調べ、まとめることができる。	概念や理論を活用して多面的・多角的に社会課題を把握することができる。社会課題の解決について根拠をもって構想する、構想したことについて議論する、公正に判断することができる。	現実社会の諸課題について主体的に構想しようとする。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、よりよい社会の形成に、役割を果たそうとする自覚がある。
わかる 習得	現実社会の諸課題について探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解することができる。諸資料から、社会の在り方に関わる情報を調べ、まとめることができる。	概念や理論を活用して社会課題を把握することができる。社会課題の解決について構想する力、構想したことを議論し判断する力が身についている。	現実社会の諸課題について主体的に構想しようとする。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会の形成に、役割を果たそうとする自覚がある。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人]	[思考できる人] [バランスのとれた人] [信念をもつ人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題	定期考査 課題	定期考査 課題 学習に取り組む姿勢や意欲

■何で学ぶか [教材]

詳述 政治・経済(実教出版)
 副教材:政治・経済資料2026(とうほう)、Winning COM.-PASS公共・政経の整理と演習2026(とうほう)

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

政治や経済について、日本だけでなく世界についても学ぶための授業を行う。思考力、判断力、表現力を養う前に知識を獲得させ、政治や経済のシステムがどう形成され、変化してきたのかという背景や、原理が理解できるようにする。そのために、教科書に設けられている問を積極的に活用し政治や経済を多角的、多面的に捉えられるようにしていく。
 知識、思考力、表現力、主体性を図る課題を課す。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

時数	学習内容
前期中間 4月 5月 6月	資本主義経済と社会主義経済、経済活動と経済主体、市場経済の機能 経済成長と景気変動財政のしくみ、金融機関の働き、物価の動き
前期期末 7月 8月 9月	日本経済の歩み、中小企業、日本の農業の現状、消費者問題、労働問題 社会保障制度、国際経済、為替相場
後期中間 10月 11月	国際経済機関の役割 国際経済の諸問題、資源・エネルギー問題、政治と法の機能、人権保障 国際政治、国際社会、国際連合 安全保障、国際紛争・難民問題、国際平和
後期期末 12月 1月 2月	議会制民主主義、日本国憲法、基本的人権、国会、内閣 裁判所、地方自治、政党政治、世論と現代社会 まとめと問題演習

科目 **数学Ⅲ**

授業時数 **4 単位**

履修学年 **3 学年**

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。	いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。ことができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度がみられる。
できる 活用Ⅰ	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したりすることができる。	極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度がみられる。
わかる 習得	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解することができる。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりすることができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度がみられる。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能)	定期考査(記述)	授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み

■何で学ぶか [教材]

- ・ 教科書：「新編 数学Ⅲ」 数研出版
- ・ 問題集：「ベーシックスタイル 数学ⅢC【複素数平面・平面上の曲線】」 数研出版
- ・ 提出課題用教材：「チャート式 解法と演習 数学Ⅲ+C 完成ノート」 数研出版
- ・ 参考書：「チャート式 解法と演習 数学Ⅲ+C」 数研出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・ 各内容について、数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bとの関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・ 授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・ 「探究編」の内容も扱いながら、「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	40	第1章 数列の極限 第1節 無限数列 1 無限数列と極限 2 無限等比数列 第2節 無限級数 1 無限級数 2 無限等比級数 3 無限級数の性質
	5月		第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数 1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数 4 合成関数 第2節 関数の極限と連続性 1 関数の極限 2 三角関数の極限 3 関数の連続性 4 合成関数
	6月		第3章 微分法 第1節 微分と導関数 1 微分可能性と連続性 2 微分と導関数 3 合成関数と逆関数の微分法
前期期末	7月	40	第2節 いろいろな関数の導関数 1 三角関数の導関数 2 対数関数・指数関数の導関数 3 高次導関数 第3節 微分法の応用 1 接線・法線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の増減 3 第2次導関数とグラフ 第4節 いろいろな応用 1 最大、最小 2 方程式・不等式への応用 3 速度と加速度 4 関数の近似式
	8月		
	9月		
後期中間	10月	25	第4章 積分法 第1節 不定積分 1 不定積分 2 置換積分法と部分積分法 第2節 定積分 1 定積分 2 定積分と微分 3 区分求積法と定積分 第3節 積分法の応用 1 面積 2 体積 3 曲線の長さ
	11月		
後期期末	12月	35	※共通テスト対策問題演習
	1月		

科目 **数学C**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **3 学年**

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	・ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察することができる。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度がみられる。
できる 活用Ⅰ	・ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、数学的な表現の工夫ができる。	・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察することができる。 ・図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度がみられる。
わかる 習得	・ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察することができる。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようたりしている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能)	定期考査(記述)	授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書：「新編 数学C」 数研出版
- ・問題集：「キートレーニング数学演習 I AⅡBC【ベクトル】受験編」 数研出版
- ・提出課題用教材：「チャート式 解法と演習 数学C 完成ノート」 数研出版
- ・参考書：「チャート式 解法と演習 数学C」 数研出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・各内容について、数学 I・A・Ⅱ・Bとの関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・「探究編」の内容も扱いながら、「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの和, 差, 実数倍 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 第2節 ベクトルと図形 1 位置ベクトル 2 位置ベクトルと図形 2 ベクトル方程式 第3節 空間のベクトル 1 空間の点の座標 2 空間のベクトル 3 空間のベクトルの内積 4 位置ベクトル
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	第2章 複素数平面 第1節 複素数平面 1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 第2節 平面図形と複素数 1 平面図形と複素数 2 等式の表す図形
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	第3章 平面上の曲線 第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線の共有点 6 2次曲線と離心率 第2節 媒介変数と極座標 1 曲線の媒介変数表示 2 極座標と極方程式 3 いろいろな曲線
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	※共通テスト対策問題演習
	1月		
	2月		

科目 数学C

授業時数 3 単位

履修学年 3 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	・ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察することができる。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度がみられる。
できる 活用Ⅰ	・ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、数学的な表現の工夫ができる。	・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察することができる。 ・図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度がみられる。
わかる 習得	・ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察することができる。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとし、している。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能)	定期考査(記述)	授業に臨む姿勢 振り返り 「課題学習」への取り組み

■何で学ぶか【教材】

- ・教科書：「新編 数学C」数研出版
- ・問題集：「キートレーニング数学演習ⅠAⅡBC【ベクトル】受験編」数研出版
- ・提出課題用教材：「チャート式 解法と演習 数学C 完成ノート」数研出版
- ・参考書：「チャート式 解法と演習 数学C」数研出版

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

- ・各内容について、数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bとの関連を十分に考慮して授業をすすめる。
- ・授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力、判断力、表現力等」を養う。
- ・「探究編」の内容も扱いながら、「主体的に学習に取り組む態度」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	30	第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの和, 差, 実数倍 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 第2節 ベクトルと図形 1 位置ベクトル 2 位置ベクトルと図形 2 ベクトル方程式 第3節 空間のベクトル 1 空間の点の座標 2 空間のベクトル 3 空間のベクトルの内積 4 位置ベクトル
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	30	第2章 複素数平面 第1節 複素数平面 1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 第2節 平面図形と複素数 1 平面図形と複素数 2 等式の表す図形
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	20	第3章 平面上の曲線 第1節 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線の共有点 6 2次曲線と離心率 第2節 媒介変数と極座標 1 曲線の媒介変数表示 2 極座標と極方程式 3 いろいろな曲線
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	25	※共通テスト対策問題演習
	1月		
	2月		

科目 **発展数学α**

授業時数 4 単位

履修学年 3 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	数学ⅠAの内容についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	学習内容の意味を正しく理解した上で、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度がみられる。
できる 活用Ⅰ	数学ⅠAの内容についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、数学的な表現の工夫ができる。	学習内容の意味を正しく理解した上で、各単元について統合的・発展的に考察することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度がみられる。
わかる 習得	数学ⅠAの内容についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	学習内容の意味を正しく理解し、各単元について、根拠をもって考察することができた。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能)	定期考査(記述)	授業に臨む姿勢 振り返り

■何で学ぶか [教材]

・キートレーニング数学演習ⅠAⅡBC[ベクトル]受験編(数研出版)

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・ 問題集の各問題について、各自で問題を予め解かせた上で解説を行う。
- ・ 授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力, 判断力, 表現力等」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	30	【数学I】 1 式の計算(1) 2 式の計算(2) 3 1次不等式 4 集合 5 命題と論証 6 2次関数 7 2次関数の最大・最小
	5月		
	6月		
前期期末	7月	30	8 2次方程式と2次不等式 9 三角比の基本 10 三角比と図形(1) 11 三角比と図形(2) 12 データの代表値と散らばり 13 データの相関 14 仮説検定の考え方
	8月		
	9月		
後期中間	10月	40	【数学A】 15 場合の数・順列(1) 16 順列(2)・組合せ 17 確率(1) 18 確率(2) 19 平面図形(1) 20 平面図形(2) 21 空間図形
	11月		
	12月		
後期期末	12月	40	※共通テスト対策問題演習
	1月		
	2月		

科目 **発展数学β**

授業時数 2 単位

履修学年 3 学年

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	学習内容の意味を正しく理解した上で、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度がみられる。
	できる 活用Ⅰ	学習内容の意味を正しく理解した上で、各単元について統合的・発展的に考察することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度がみられる。
	わかる 習得	学習内容の意味を正しく理解し、各単元について、根拠をもって考察することができた。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能)	定期考査(記述)	授業に臨む姿勢 振り返り

■何で学ぶか [教材]

・キートレーニング数学演習 I A II BC[ベクトル]受験編(数研出版)

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・ 問題集の各問題について、各自で問題を予め解かせた上で解説を行う。
- ・ 授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力, 判断力, 表現力等」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	16	【数学Ⅱ】 22 式と証明 23 複素数と方程式(1) 24 複素数と方程式(2) 25 点・直線・円 26 曲線と直線 27 軌跡と領域 28 三角関数(1) 29 三角関数(2)
	5月		
前期期末	6月	16	30 指数関数 31 対数関数 【数学B】 32 導関数と接線 33 関数の変化, 最大・最小 34 微分法の応用 35 不定積分・定積分 36 面積
	7月		
後期中間	8月	16	37 等差数列・等比数列 38 種々の数列 39 漸化式と数列 40 数学的帰納法, 数列の応用 41 統計的な推測(1) 42 統計的な推測(2) 43 統計的な推測(3)
	9月		
後期期末	10月	22	※共通テスト対策問題演習
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		

科目 **発展数学ⅳ**

授業時数 **4 単位**

履修学年 **3 学年**

目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常生活における様々な事象を数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	数学ⅠAⅡBの内容についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	学習内容の意味を正しく理解した上で、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度がみられる。
できる 活用Ⅰ	数学ⅠAⅡBの内容についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解した上で、数学的な表現の工夫ができる。	学習内容の意味を正しく理解した上で、各単元について統合的・発展的に考察することができる。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度がみられる。
わかる 習得	数学ⅠAⅡBの内容についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	学習内容の意味を正しく理解し、各単元について、根拠をもって考察することができた。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	小テスト 定期考査(基本的知識・技能)	定期考査(記述)	授業に臨む姿勢 振り返り

■何で学ぶか [教材]

・キートレーニング数学演習ⅠAⅡBC[ベクトル]受験編(数研出版)

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・ 問題集の各問題について、各自で問題を予め解かせた上で解説を行う。
- ・ 授業の中で様々な「問いかけ」を行いながら、「知識及び技能」の定着を図るとともに、「思考力, 判断力, 表現力等」を養う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	30	第1章 1 式の計算 2 式の値 3 1次不等式 4 命題と集合
	5月		第2章 5 関数とグラフ 6 関数の最大・最小 7 2次方程式, 2次不等式 8 2次関数のグラフとx軸の共有点
	6月		第3章 9 三角比の基本 10 三角比と図形(1) 11 三角比と図形(2) 第4章 12 データの分析 第5章 13 場合の数、順列 14 組合せ 15 確率(1) 16 確率(2)
前期期末	7月	30	第6章 17 図形の性質(1) 18 図形の性質(2)
	8月		第7章 19 約数と倍数 20 不定方程式 21 整数の種々の問題 第8章 22 二項定理, 多項式の除法, 分数式の計算 23 恒等式, 等式・不等式の証明
	9月		第9章 24 複素数とその計算, 2次方程式の理論 25 剰余の定理・因数定理, 高次方程式 第10章 26 点と直線 27 曲線と直線 28 軌跡と領域 第11章 29 三角関数(1) 30 三角関数(2) 第12章 31 指数関数・対数関数(1) 32 指数関数・対数関数(2)
後期中間	10月	40	第13章 33 導関数と接線 34 関数の値の変化 35 微分法の応用 36 不定積分・定積分 37 面積(1) 38 面積(2)
	11月		第14章 39 等差数列・等比数列 40 種々の数列 41 漸化式と数列 42 数学的帰納法、数列の応用 第15章 43 統計的な推測
後期期末	12月 1月 2月	40	※共通テスト対策問題演習

科目	物理	授業時数	3 単位
		履修学年	3 学年
目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	物理学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を駆使して複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するための観察、実験などを自ら計画実行できる。	複雑な事象について観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。	主体的に学習や発言に関わり、様々な事象の因果関係を考えたり、考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	物理学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	主体的に学習に関わり、自らの考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
わかる 習得	物理学の基本的な概念や原理・法則についての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	主体的に学習に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「高等学校 物理」啓林館
- ・「セミナー 物理基礎+物理 新課程版」第一学習社

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。

学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりする。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	30	4月：電気と磁気「電界と電位」 5月：電気と磁気「電流」 6月：電気と磁気「電流と磁界」
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	24	7月：電気と磁気「電磁誘導と電磁波」 8月：電気と磁気「電磁誘導と電磁波」 9月：原子・分子の世界「電子と光」
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	24	10月：原子・分子の世界「原子・原子核・素粒子」 11月：総合演習
	11月		
後期 期末	12月	27	
	1月		
	2月		

科目	化学	授業時数	2 単位
		履修学年	3 学年
目標	化学的な事象・現象についての観察、実験を行うことなどを通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究する力や態度を育成する。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	化学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を駆使して複雑な事象を理解することができる。また、科学的に探究するための観察、実験などを自ら計画実行できる。	複雑な事象について観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述し、考えを論理的に表現することができる。	化学的な事象・現象に主体的に関わり、様々な事象の因果関係を考えたり、考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	化学の基本的な概念や原理・法則について基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを計画実行し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	化学的な事象・現象に主体的に関わり、自らの考えを他者と伝え合うことで理解を深め、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
わかる 習得	化学の基本的な概念や原理・法則についての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	化学的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「高等学校 化学」啓林館
- ・問題集「セミナー 化学基礎+化学 新課程版」第一学習社
- ・資料集「新課程二訂版 スクエア最新図説化学」第一学習社

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。
学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりする。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	16	第4部 第1章 有機化合物の特徴と分類 (1) 有機化合物の特徴と分類 (2) 有機化合物の分析 第2章 脂肪族炭化水素 (1) 飽和炭化水素 (2) 不飽和炭化水素 第3章 酸素を含む脂肪族化合物 (1) アルコールとエーテル (2) アルデヒドとケトン
	5月 6月		
前期期末	7月	16	(3) カルボン酸 (4) エステルと油脂 第4章 芳香族化合物 (1) 芳香族炭化水素 (2) 酸素を含む芳香族化合物 (3) 窒素を含む芳香族化合物 (4) 有機化合物の分離
	8月 9月		
後期中間	10月	16	第5部 高分子化合物 第1章 高分子化合物 (1) 高分子化合物の分類と特徴 第2章 天然高分子化合物 (1) 糖類 (2) タンパク質 (3) 核酸 第3章 合成高分子化合物 (1) 高分子化合物の合成 (2) 合成繊維 (3) プラスチック(合成樹脂) (4) ゴム (5) 生活で利用されている合成樹脂
	11月		
後期期末	12月	22	
	1月 2月		

科目	生物	授業時数	3 単位
		履修学年	3 学年

目標 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	問題解決の為の観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、検証、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書の作成、発表を通して科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、課題の解決や科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする態度が養われている。
できる 活用Ⅰ	生物や生物現象についての基礎的な知識を身に付け活用できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	課題解決の為の観察や実験等を計画、実行でき、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく分析、記述することができる。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、課題の解決や科学的に探究しようすることができる。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようと思えることができる。
わかる 習得	生物や生物現象についての基本を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な事が行える。	観察、実験などを通して科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようと思えることができる。
風越高校の目指す学習者像	・知識のある人 ・広い視野を持つことができる人	・思考できる人 ・振り返りができる人	・探究する人 ・思いやりのある人
評価方法	・定期考査 ・実験レポート(基本知識・技能) ・課題確認テスト(小テスト)	・定期考査 ・実験レポート(記述) ・課題確認テスト(小テスト)	・授業に臨む姿勢や意欲 ・実験レポート(態度・記述) ・パフォーマンス評価

■何で学ぶか【教材】

- 教科書：『生物』／ 数研出版
- 問題集：『セミナー 生物』新課程版／ 第一学習社
- 図説：スクエア最新図説生物 新課程／ 第一学習社

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

・教科書、図説、準拠ノートを活用して生物に関する基礎的な知識を体系的に学び、問題集を利用してその知識の定着を図る。
 ・科学的に探究する姿勢を養うために、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの方法を習得する。
 ・授業やレポートの作成・発表を通して生物や生物現象についての理解を深め、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養っていく。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	25	第5章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容 第2節 ニューロンとその興奮 第3節 情報の統合 第4節 刺激への反応 第5節 動物の行動
	5月 6月		
前期期末	7月	30	第6章 植物の環境応答 第1節 植物の生活と植物ホルモン 第2節 発芽の調節 第3節 成長の調節 第4節 器官の分化と花芽形成の調節 第5節 環境の変化に対する応答 第6節 配偶子形成と受精
	8月 9月		
後期中間	10月	30	第7章 生物群集と生態系 第1節 個体群の構造と性質 第2節 個体群内の個体間の関係 第3節 異なる種の個体群間の関係 第4節 生態系の物質生産と物質循環 第5節 生態系と人間生活
	11月		
後期期末	12月	20	問題演習(生物の進化、生命現象と物質) 問題演習(遺伝情報の発現と発生、生物の環境応答) 問題演習(直前対策)
	1月 2月		

科目	生物基礎活用	2 単位
履修学年	3 学年	
目標	基礎的な科学的素養を探究的な学習を通し、科学的なものの見方や考え方を身につけ、進路希望に応じた応用力・考察力を習得する。また、理解を深めることによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。	

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準「育ちのプロセス」 使える 活用Ⅱ	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けており、それらを社会においていかす事ができる。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述でき、互いに意見を共有しながら考察することができる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けており、あらゆる問題や事象について探究することができ、周りの人と共に互いに研鑽し合うことができる。
できる 活用Ⅰ	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けており、あらゆる問題や事象について探究することができる。
わかる 習得	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めている。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	〔探究する人〕 〔知識のある人〕	〔思考できる人〕 〔広い視野を持つことができる人〕	〔コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人〕 〔挑戦する人〕
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートなどの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

改訂版 リードα 生物基礎(数研出版)

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。
学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりすることにより、探究の全ての学習過程を経験できるようにします。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

時数		学習内容
		生物基礎活用
前期中間	4月5日	探究活動 1. 生物の特徴 【多様性と共通性】 ・細胞分裂に関する実験・探究活動
	6月	15 【生物とエネルギー】 ・光合成に関する実験・探究活動 2. 遺伝子とその働き 【遺伝情報とDNA】 ・DNAの構造 模型の製作 ・DNAの抽出実験と探究
前期期末	7月5日	15 【遺伝情報とタンパク質の合成】 ・染色体の観察 ・バイオテクノロジーについての探究活動
	9月	3. ヒトのからだの調節 【生物の体内環境】 ・体液濃度の変化が赤血球に与える影響 【免疫】 ・免疫の仕組みと感染症についてのまとめ
後期中間	10月5日	20 4. 植生の多様性と生態系 【植生・バイオーム・】 ・身近な植生と環境との関わり ・生態系とその保全・外来生物が生態系に及ぼす影響について
	11月	
後期期末	12月5日	20 総復習…問題集を利用した総合学習 知識確認問題演習 実験・考察・計算問題演習 総合問題演習 模擬問題演習 直前対策
	2月	

科 目	化学基礎活用	授業時数	2 単位
		履修学年	3 学年
目 標	基礎的な科学的素養を探究的な学習を通し、科学的なものの見方や考え方を身につけ、進路希望に応じた応用力・考察力を習得する。また、理解を深めることによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けており、それらを社会においていかす事ができる。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述でき、互いに意見を共有しながら考察することができる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けており、あらゆる問題や事象について探究することができ、周りの人と共に互いに研鑽し合うことができる。
できる 活用Ⅰ	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けており、あらゆる問題や事象について探究することができる。
わかる 習得	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めている。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人]	[思考できる人] [広い視野を持つことができる人]	[コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] [挑戦する人]
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートなどの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

・問題集:セミナー化学基礎

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。
学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりすることにより、探究の全ての学習過程を経験できるようにします。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
			化学基礎
前期 中間	4 月 5 月 6 月	15	探求活動 1, 物質の構成 【物質の成分と構成元素】 ・物質の構成元素に関する実験・探求活動 【原子の構成と元素の周期表】 ・原子構成に関する探求活動 【化学結合】 ・結合に関する探求活動
	7 月 8 月 9 月	15	2, 物質の変化 【物質量と濃度】 ・質量濃度およびモル濃度 【化学変化と化学反応式】 ・反応式の意味 【酸塩基・水素イオン濃度】 ・酸塩基に関する実験・探求活動
後期 中間	10 月 11 月	20	【中和と塩】 ・塩に関する探求活動 【酸化還元反応】 ・酸化還元反応の実験 【電池と電気分解】 ・電池・電気分解の実験および探求活動
	12 月 1 月 2 月	20	総復習…問題集を利用した総合学習 知識確認問題演習 実験・考察・計算問題演習 総合問題演習 模擬問題演習 直前対策

科目	地学基礎活用	授業時数	2 単位
		履修学年	3 学年
目標	基礎的な科学的素養を探究的な学習を通し、科学的なものの見方や考え方を身につけ、進路希望に応じた応用力・考察力を習得する。また、理解を深めることによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準「育ちのプロセス」 使える 活用Ⅱ	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けており、それらを社会においていかす事ができる。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述でき、互いに意見を共有しながら考察することができる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けており、あらゆる問題や事象について探究することができる。周りの人と共に互いに研鑽し合うことができる。
できる 活用Ⅰ	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けており、あらゆる問題や事象について探究することができる。
わかる 習得	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めている。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
風越高校の目指す学習者像	〔探究する人〕 〔知識のある人〕	〔思考できる人〕 〔広い視野を持つことができる人〕	〔コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人〕 〔挑戦する人〕
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートなどの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

- ・高等学校地学基礎(数研出版)・・・2年時に使用したもの
- ・新課程フォトサイエンス 地学図録(数研出版)
- ・問題集:新課程リードα 地学基礎(数研出版)・・・2年時に使用したもの
- ・問題集:ビーライン地学基礎(第一学習社)新たに購入する予定

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。

学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりすることにより、探究の全ての学習過程を経験できるようにします。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
			地学基礎活用
前期 中間	4月5日	15	太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽 1 太陽系の天体 (探究活動)地球型惑星と木星型惑星 2 太陽 3 太陽系の誕生と現在の地球 第2章 宇宙の誕生 1 宇宙の誕生
	6月		活動する地球 第1章 地球の構造 1 地球の形と大きさ (探究活動)地球の大きさの計測 2 地球の構造 第2章 プレーートの運動
前期 期末	7月5日	15	1 プレートテクトニクスと地殻変動 2 プレート運動のしかた (探究活動)プレートの移動速度 第3章 地震 1 地震 2 地震の分布 (探究活動)震源の決定 3 地震災害
	9月		第4章 火山 1 火山活動 2 火成岩 (探究活動)火山灰の観察 3 火山がもたらす恵みと災害 移り変わる地球 第1章 地層の形成
後期 中間	10月5日	20	1 堆積作用と堆積岩 2 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境 1 化石と地質年代の区分 2 古生物の変遷
	11月		大気と海洋 第1章 地球の熱収支 1 大気の構造 2 地球全体の熱収支 (探究活動)地球のエネルギー収支 第2章 大気と海水の運動 1 大気の大循環と海水の運動 2 日本の天気と気象災害
後期 期末	12月5日	20	地球の環境 1 気候の自然変動 2 人間活動による環境変化 3 日本の自然環境
	2月		総復習…問題集を利用した総合学習 知識確認問題演習 実験・考察・計算問題演習 総合問題演習 模擬問題演習 直前対策

科目 英語コミュニケーションⅢ

授業時数 4 単位

履修学年 3 学年

目標 日常的な話題および社会的な話題を取り扱う中で、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、ほとんど支援を活用しなくても、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的话题および社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、ほとんど支援を活用しなくても、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、自分から他人に働きかけ、より良い意見や議論を作り出そうとしたりする態度が身についている。
できる 活用Ⅰ	日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。
わかる 習得	日常的话题および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりしようと試みることができる。	日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れたりと、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしている。
風越高校の目指す学習者像	〔探究する人〕 〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕	〔思考できる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕	〔探究する人〕 〔振り返りができる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト)	定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「BLUE MARBLE English Communication III」数研出版
- ・速読教材
- ・総合問題集

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- (1) 英語コミュニケーションⅡでのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な指導を踏まえ、様々な題材を扱う教科書や付属資料を用いて、英語を読むこと、聞くこと、話すこと(発表・やりとり)、書くことの活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、英語の知識理解、思考判断表現、主体的に学習に取り組む態度を育成します。
- (2) 教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現したり、英語でやり取りをすることもあります。そういった活動の中で、単元をより深く理解し、表現するための文法や単語を獲得することを目指します。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

時数	学習内容
前期中間 4月 5月 6月	Lesson1 A Chance for Everyone to Shine Lesson2 Protecting Our Brains from Smartphones 38
前期期末 7月 8月	Lesson3 Wrapping: Reinventing a Cultural Tradition Lesson4 Paving the Way to a More Inclusive Society Lesson5 Discovering Your Answers Through Art Thinking 38
後期中間 10月 11月	Lesson6 Super Sniffers Saving the World Lesson7 Perceptions of Time in Different Cultures Lesson8 The Thawing Permafrost: Earth's Warning Call 27
後期期末 12月 1月 2月	Lesson9 How We Are Influenced by Advertising Lesson10 What Makes a Virtual Community? 37

科目 論理表現Ⅲ

授業時数 2 単位

履修学年 3 学年

目標 いままで学んできたコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、三つの領域別の言語活動および、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと」「書くこと」を中心とした発信能力を育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	日常的话题や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、正確に理解し、情報や考え気持などをより相手に伝わるように表現するための語句、文法や論理表現を身に着けることができる。	日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、ほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い方向へと議論を導き出すことができる。
	できる 活用Ⅰ	日常的话题や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけている。	日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い意見を作り出すことができる。
	わかる 習得	日常的话题や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけようとする。	日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようしたり、他者と協力してより良い意見にたどり着こうとしている
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]	[探究する人] [挑戦する人] [振り返りができる人]	
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト)	定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述)	

■何で学ぶか [教材]

- ・「EARTHERISE 英語総合演習 実践ランダム編」数研出版
- ・「Bright Stage 英文法・語法問題」桐原書店
- ・英作文問題集 他
- ・「EARTHRISE English Logic and Expression III Standard」数研出版

・コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、教科書や付属教材の問題を通して、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図ります。

・英語で自分の考えを表現する活動を遠して、ディスカッションやディベートの基本となる構文や表現を身につけます。自分の考えを表現するためには、高いレベルの語彙や文法が必要になります。そのため、論理表現IIで学習した語彙や文法を復習する時間も取りながら進めていきます。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	Unit1 Future of jobs in the AI era? Unit2 How have you grown as a person in your high school life?
	5月		
前期 期末	6月	16	Unit3 How do people use different types of media? Unit4 3R approach in order to save the environment Unit5 Moving toward a cashless society
	7月		
後期 中間	8月	16	Unit6 Are artificial additives really bad for us? Unit7 Japanese culture attracting people all over the world Unit8 Will we live in a decarbonized society in the future?
	9月		
後期 期末	10月	22	Unit9 Reading e-bokks or printed books? Unit10 The way we live together in the same world
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		

科目	体育	授業時数	2 単位
		履修学年	3 学年
目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能をあらゆる状況において発揮でき、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけ適確に説明できる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を一人だけでなく他者ととも合意形成しながら発見することができ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたこと様々な方法で適確に他者に伝えることができる。	公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がすべて身につけており、健康・安全を確保して、状況に応じて生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が十分に身につけている。
できる 活用Ⅰ	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能を特定の状況において発揮でき、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけ説明できる。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を一人だけでなく他者と発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを様々な方法で他者に伝えることができる。	公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がほぼ身につけており、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。
わかる 習得	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能や、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。	公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がいくつか身につけており、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人] [バランスのとれた人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人] [振り返りができる人]	[探究する人] [思いやりのある人] [挑戦する人] [信念をもつ人]
評価方法	ゲーム等における実技レベル 学習カードやレポートの記述内容	学習カードやレポートの記述内容 発言や活動の様子	授業に取り組む姿勢や意欲 学習カードやレポートへの取り組みや記述

■何で学ぶか [教材]

--

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

<p>運動・スポーツに対する知識・技技能の向上に加えて、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の向上も図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことができる資質・能力の育成を目指す。よって、学習カードやレポート等の記述内容や取り組みの様子など、体育の授業における取り組みを総合的に評価する。</p>
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

	時数	学習内容
前期 中間 4月 5月 6月	6	A 体づくり運動
	13	E 球技
前期 期末 7月 8月 9月	7	B 器械運動 D 水泳 F 武道 G ダンス
	4	C 陸上競技
	6	H 体育理論
後期 中間 10月 11月	14	E 球技
	20	E 球技
後期 期末 12月 1月 2月		

科目 **実践音楽**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **3 学年**

目標 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を、以下のプロセスに基づいて身に付ける。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽文化の多様性について理解を十分に深めるとともに、自己の表現意図に基づいた創意工夫や表現上の効果を自分なりに生かして、創造的に音楽表現をする技能を身に付けている。	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、自分や他者の意見を積極的に取り入れ、表現意図を確かめたり、音楽の意味や価値を創造したりし、更に幅広い音楽を批評しながらよさや美しさ、その意味や価値について考察しながら聴いたりすることができる。	主体的・協働的に音楽の諸活動に意欲的に取り組み、音楽が人々の暮らし・文化・社会などによって育まれてきたものであることを感じ取り、自らもその礎のひとつとなる存在であることを自覚し、音楽文化を生涯にわたり尊重していく態度を養っている。
できる 活用Ⅰ	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽文化の多様性について十分理解するとともに、自己の表現意図に基づいた創意工夫や表現上の効果を自分なりに生かした音楽表現をする技能を身に付けている。	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに、そして他者と協働しながら創意工夫したり、音楽を批評しながらよさや美しさ、その意味や価値について考察しながら聴いたりすることができる。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、音楽を批評しながらよさや美しさ、その意味や価値について考察しながら、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を洗練し、音楽文化を尊重しながら関わっていく態度を養っている。
わかる 習得	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができる。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養っている。
風越高校の目指す学習者像	知識のある人 バランスのとれた人	思考できる人 信念をもつ人 広い視野を持つことができる人	探究する人 コミュニケーションできる人 思いやりのある人 挑戦する人 振り返りができる人
評価方法	実技試験(歌唱・器楽) 単元ごとの小テスト	単元ごとのワークシート 単元ごとの小テスト内の振り返り 実技試験(歌唱・器楽)	授業態度 出欠状況

■何で学ぶか【教材】

教科書「MOUSA2」(教育芸術社) 単元ごとのワークシート

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

<ul style="list-style-type: none"> ・主に、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の4分野をもとに、授業選択者の進路に応じて、身に付けるべき必要な技能について学ぶ。そのため、このシラバスに書かれている学習内容とは変更する可能性がある。 ・授業の中で、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」をバランスよく身に付けるため、実技活動のみならず、座学や考えたり共有したりする時間もある。 ・内容によって、個人活動・グループ活動など幅広い活動行う。 ・音楽活動を通して、人間性を養ったり、感性を磨いたり、人として成長することを目指す。

■いつ、何を学ぶか【学習内容】

時数		学習内容
前期中間 4月 5月 6月	17	『オリエンテーション』(1時間) ・これから1年間どのようなことを学ぶのか、どのような態度で学ぶのか、確認をして見通しを立てる。
		『楽典Ⅲ』(7時間) ・主に、音程や和音、コードについて学び、これからの音楽活動をスムーズに行えるようにする。
		『キーボードのコード弾き』【器楽】(9時間) ・楽典で学んだ和音やコードを用いて、コード弾きおよび伴奏アレンジについて学ぶ。
前期期末 7月 8月 9月	17	『キーボードのコード弾き』【器楽】続き(3時間) ・楽典で学んだ和音やコードを用いて、コード弾きおよび伴奏アレンジについて学ぶ。
		『日本歌曲Ⅲ』【歌唱】(8時間) ・《さびしいカシの木》などを用いて、日本歌曲の美しさを学ぶとともに、これまでに学んだ和音進行などを歌に活かす。
後期中間 10月 11月	16	『日本伝統音楽Ⅲ』【器楽】(8時間) ・箏を用いて、日本の伝統音楽について学び、さらに箏の特殊奏法を含めた表現方法を学ぶ。
		『創作活動Ⅲ』【創作】(8時間) ・教育芸術社の「カトカトーン」を用いて、和音やコードをはじめとする音楽を形づくっている要素を活用して創作や、様々なアレンジをする。
後期期末 12月 1月 2月	16	『オペラⅢ』【鑑賞】(7時間) ・《トゥーランドット》などを見て、オペラの特徴と表現などについて学ぶ。
		『パフォーマンス』【創作】(9時間) ・これまでに学んだことを総合的に働かせながら、自分の個性を活かした演奏発表を企画・練習し、披露する。

科目 **実践美術**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **3 学年**

目標 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中
の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	・造形的なよさや美しさ、表現意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
できる 活用Ⅰ	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解し、意図に応じて表現方法を工夫し、表すことができる。	・造形的なよさや美しさ、表現意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方を感じ取ることができる。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
わかる 習得	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解しようとし、意図に応じて表現方法を選んで表すことができる。	・造形的なよさや美しさ、表現意図と工夫、美術の働きなどについて知り、主題を生成し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方を理解することができる。	・進んで美術の幅広い創造活動に取り組み、美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術に親しみ、生活に生かそうとする。
風越高校の目指す学習者像	思考できる人 知識のある人	広い視野を持つことができる 探究する人	信念をもつ人 振り返りができる人
評価方法	作品、学習カードの記述、鑑賞会の発言	制作過程、作品、学習カードの記述	制作過程、作品、学習カードの記述

■何で学ぶか【教材】

「高校生の美術Ⅱ」(教育芸術社) 手作り教材

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

<ul style="list-style-type: none"> ・表現力～心と体を向けて話を聞く、伝わる話し方。感じ方を具体的に記述する。表現は作品だけではない。 ・授業の開始・・・準備して着席。終了・・・チャイム前には教室を出ない。 ・準備、片付け・・・協力して全体が早くきちんとできる。 ・作品を期限までに仕上げ、提出すること。・必要な資料、材料等の準備は積極的に行うこと。・授業後の片づけ、物品の管理はきちんとすること。・鑑賞時等には自分の考え方や感じ方を積極的に述べるよう努めること。・幅広く美術に関心を持ち、感性を働かせて、美しく創造的な表現や材料・用具を生かす工夫、技能の向上、自然や人間、文化などの理解等に努め、積極的・意欲的に美術の活動に取り組んで下さい。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	20	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・「思いを伝える手」(絵画)
	5月		
前期期末	6月	15	<ul style="list-style-type: none"> ・「様々な表現」(デザイン)
	7月		
後期中間	8月	20	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい生活を彩る器」(工芸)
	9月		
後期期末	10月	15	<ul style="list-style-type: none"> ・現代美術、地域美術(模写、鑑賞) ・まとめ
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		

科目 **実践書道**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **3 学年**

目標 書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。</p>	<p>書の伝統と文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造的活動幅広い創作活動に取り組もうとしている。</p>
できる 活用Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法や形式、書表現の多様性について理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の実現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>
わかる 習得	<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法や形式、書表現の多様性についておおむね理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能をおおむね身に付けようとしている。 	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し個性豊かに表現をおおむね工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、おおむね書の美を味わい捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の実現及び鑑賞の幅広い活動におおむね取り組もうとしている。</p>
風越高校の目指す学習者像	<ul style="list-style-type: none"> 探究する人 知識のある人 挑戦する人 	<ul style="list-style-type: none"> 思考できる人 コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人 広い視野を持つことができる人 	<p>挑戦する人 振り返りができる人</p>
評価方法	ワークシート ICT成果物 活動の様子 評価テスト 作品	ワークシート ICT成果物 活動の様子 評価テスト 作品	ワークシート ICT成果物 活動の様子 評価テスト 作品

■何で学ぶか [教材]

・教科書「書Ⅱ」光村図書

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

・学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
 ・書の伝統と文化について、さまざまな角度からアプローチし、理解を深めて文化に親しみ、書に興味をもち、主体的に学ぶことで自分の書に向き合います。
 ・書写で培った能力を基礎としながらも、古典教材を学習することにより、表現力と鑑賞力を相乗的に育みながら自己表現へと展開します。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期中間	4月	20	(1) 漢字の書① 個性豊かな書表現 文字の造形を学ぶ
	5月		
前期期末	6月	15	(2) 篆刻 姓名印 (1) 漢字の書② 創作
	7月		
後期中間	8月	20	(3) 仮名の書 文字の造形を学ぶ 創作
	9月		
後期期末	10月	15	(4) 漢字仮名交じりの書 古典に学ぶ 創作
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		

科目 **情報探究**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **3 学年**

目標 大学入学共通テストの実践問題を通して、情報の重要性と入学共通テストに耐えられる学力をつける

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識と技術を身につけ、情報化の進展する社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する方法が見つけられる。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
できる 活用Ⅰ	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識と技術を身につけ、情報化の進展する社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する方法が見つけようとしている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて改善しようとしている。
わかる 習得	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識と技術を身につけている	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決の方法を見つけようとしている	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決策を考えようとしている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [探究する人]	[コミュニケーションできる人] [広い視野を持つことのできる人]	[振り返りのできる人] [思いやりのある人]
評価方法	定期テスト 課題提出	定期テスト 課題提出	定期テスト 課題提出

■何で学ぶか【教材】

テキスト「進研WINSTEP」 情報Ⅰ Benesse
教科書「情報Ⅰ」日本文教出版

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

テキストを中心に教科書と照らし合わせながら、大学入学共通テストの実践問題を解いていく。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	第1章 情報社会 第2章 メディアとコミュニケーション 第3章 情報のデジタル化 第4章 情報デザイン
	5月		
前期 期末	6月	18	第5章 コンピュータの仕組み 第6章 情報通信ネットワーク 第7章 モデル化とシミュレーション 第8章 情報通信ネットワーク
	7月		
後期 中間	8月	18	第9章 情報通信ネットワーク 第10章 データの活用 第11章 実践問題演習 予想問題
	9月		
後期 期末	10月	18	予想問題
	11月		
	12月	18	
	1月		
	2月		

科 目	保育基礎	授業時数	2 単位
		履修学年	3 学年
目 標	子どもの発達の特長や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。		

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	ひとりひとりの子どもに個性があることを理解し、これから子どもを支えていく社会をつくる責任があることを認識できる。子どもの生活、保育に関する知識を総合的に身に付け、保育に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実践できる。	現代の子どもの生活などから、問題点を見つけ、課題を設定し、その解決を目指して思考を深めたことを論理的に表現することができる。	子どもについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの発達や子育て支援に主体的に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。
できる 活用Ⅰ	子どもの発達の特長、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	子どもの育つ環境と社会について課題を見つけ、その解決方法を考え、自分の考えた事を表現するなど、解決する姿勢を身に付けている。	子どもに対して環境を含めた適切な関わりが大切であることを理解し、自分とその周囲に対して、主体的・積極的に考えることができる。
わかる 習得	ひとりひとりの子どもに個性があることを理解し、これから子どもを支えていく社会をつくる責任があることを認識できる。子どもの生活、保育に関する知識を理解し、保育に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	子どもの育つ環境と社会について課題を見つけ、その解決方法を考えることができ、また、自分の考えた事を表現することができる。	子どもの健やかな育ちを支える環境や社会のあり方について関心をもち、主体的に取り組む事ができる。
風越高校の目指す学習者像	〔知識のある人〕 〔探究する人〕	〔思考できる人〕 〔広い視野を持つことができる人〕 〔バランスのとれた人〕 〔振り返りができる人〕	〔コミュニケーションできる人〕 〔思いやりのある人〕 〔挑戦する人〕
評価方法	定期テスト 実習レポート 作品	定期テスト 実習レポート 作品	授業・実習に臨む姿勢や意欲 学習ノートの記入・提出状況 実習レポート

■何で学ぶか [教材]

<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「保育基礎」実教出版 ・「保育基礎 学習ノート」実教出版 ・資料集「生活学Navi 資料＋成分表」実教出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

<ul style="list-style-type: none"> ・講義を通して基本的な知識を身に付けます。話をよく聞き、ノートを取りましょう。 ・乳幼児とのふれあいなどの体験的・実践的活動を行います。 ・子どもの発達や子育てに関する課題などについて考え、レポートする活動を行います。 ・周りの生徒と共同で考える活動を行います。 ・授業には積極的に参加し、新聞などにより情報を収集しましょう。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	1章 子どもの保育 ・保育の意義 ・保育の方法 ・保育の環境 2章 子どもの発達 ・子どもの発達の特徴 ・子どものからだの発達 ・子どもの心の発達
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	3章 子どもの生活 ・子どもの生活と養護 ・生活習慣の形成 ・健康管理と事故防止
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	4章 子どもの文化 ・子どもの文化の意義と支える場 ・子どもの遊びと表現活動 保育園実習
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	5章 子どもの福祉 ・子ども観 ・子どもの福祉 ・子育て支援
	1月		
	2月		

科 目	服飾手芸	授業時数	2 単位
		履修学年	3 学年

目 標 手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得する。
手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力を身につける。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか【めざす能力とその次元】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得し、活用できる。	習得した技術で、作品の創意工夫、作品に込めた思いなどを、主体的にわかりやすく表現することができた。	手芸品を創造的に製作し、服飾に活用しようとする態度を身につけ、主体的に取り組むことができた。
できる 活用Ⅰ	手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を身につけることができた。	作品の創意・工夫、作品に込めた思いなどを、わかりやすく表現することができた。	手芸品を創造的に製作し、服飾に活用しようとする態度を身につけることができた。
わかる 習得	手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得できた。	作品の創意・工夫、作品に込めた思いなどを表現することができた。	手芸品を創造的に製作し、服飾に活用することができた。
風越高校の目指す学習者像	〔知識のある人〕 〔探究する人〕	〔思考できる人〕 〔広い視野を持つことができる人〕 〔バランスのとれた人〕 〔振り返りができる人〕	〔コミュニケーションできる人〕 〔思いやりのある人〕 〔挑戦する人〕
評価方法	小テスト 実習レポート 作品	小テスト 実習レポート 作品	授業・実習に臨む姿勢や意欲 実習レポート 作品

■何で学ぶか【教材】

「生活学Navi 資料＋成分表」実教出版

■どのように学ぶか【授業の方法／学び方】

<ul style="list-style-type: none"> ・授業は制作実習を主とするため、欠席すると制作進捗が遅れます。欠席しないこと。 ・課題や作品は、必ず提出すること。 ・別途実習費が必要です。
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	被服実習 ・布について ・作品の各部の名称 ・印付け、裁断 ・製作(ミシン、手縫い)
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	被服実習 ・製作(ミシン、手縫い)
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	被服実習 ・製作(ミシン、手縫い)
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	被服実習 ・製作(ミシン、手縫い) ・実習作品の扱い、管理 ・まとめ
	1月		
	2月		

科目	フードデザイン	授業時数	2 単位
		履修学年	3 学年

目標 栄養、食品、献立、調理などに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインできる能力を身につける。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	ライフステージに応じた栄養素等の摂取や五大栄養素の働きについて理解し、食事摂取基準や食品群別摂取量の目安などの活用ができる。また、食品の安全について理解し、よりよい食生活を送るための適切な食品選択、調理ができる。	食生活について様々な側面から問題点を見出し、課題を設定し、改善のために考え、知識を活用し、明確にまとめることができる。	食生活においてどのような点が課題としてあげられ、どのような方法で解決をしていけばよいか、獲得した知識・技術を用い主体的に取り組み、改善することができる。
できる 活用Ⅰ	ライフステージに応じた栄養素等の摂取や五大栄養素の働きについて理解し、食事摂取基準や食品群別摂取量の目安などの活用ができる。また、食品の安全について理解し、適切な食品選択、調理ができる。	食生活について様々な側面から問題点を見出し、課題を設定し、改善のために考えた内容についてまとめることができる。	食生活においてどのような点が課題としてあげられ、どのような方法で解決をしていけばよいか、獲得した知識・技術を用い、改善できる。
わかる 習得	ライフステージに応じた栄養素等の摂取や五大栄養素の働きについて理解し、食事摂取基準や食品群別摂取量の目安などの活用ができる。また、食品の安全についてや適切な食品選択、調理について理解している。	食生活について様々な側面から問題点を見出すことができる。	自己や家族の食生活を振り返り、よりよい食事や健康について積極的に考えることができる。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [探究する人]	[思考できる人] [広い視野を持つことができる人] [バランスのとれた人] [振り返りができる人]	[コミュニケーションできる人] [思いやりのある人] [挑戦する人]
評価方法	定期テスト 実習レポート 作品	定期テスト 実習レポート	授業・実習に臨む姿勢や意欲 学習ノートの記入・提出状況 実習レポート

■何で学ぶか [教材]

<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「フードデザイン」教育図書 ・「フードデザイン ワークノート」教育図書 ・「生活学Navi 資料+成分表」実教出版

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

<ul style="list-style-type: none"> ・栄養や食事に関する知識を講義で身につける。 ・実習を通して、調理やテーブルコーディネートなどの技術を習得する。 ・食生活の課題・問題点について、レポート等にまとめることで考察を深める。 ・調理実習があるので、エプロン・三角巾を用意すること。
--

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	第1章 健康と食生活 ・食事の意義と役割 ・食を取り巻く現状 第2章 栄養素と食品 ・栄養素と消化・吸収 ・各栄養のはたらき ・食品とその特徴 ・何をどれだけ食べる？ 調理実習
	5月		
	6月		
前期 期末	7月	16	第3章 食品の選択と取り扱い ・食品選択のコツ ・食品の衛生と安全 ・食の安全を考えて選ぼう 調理実習
	8月		
	9月		
後期 中間	10月	16	第4章 調理してみよう ・なぜ調理するのか ・調理操作と調理器具 第5章 各国調理とコーディネート ・料理の様式 ・テーブルコーディネート 調理実習
	11月		
	12月		
後期 期末	12月	22	第6章 食育と食育推進活動 ・食育推進の取り組み ・食文化を見つめる ・食と健康について考えよう
	1月		

科目 英語探究

授業時数 4 単位

履修学年 3 学年

目標 日常的な話題および社会的な話題を取り扱う中で、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	日常的な話題および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、ほとんど支援を活用しなくても、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的な話題および社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、ほとんど支援を活用しなくても、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、自分から他人に働きかけ、より良い意見や議論を作り出そうとしたりする態度が身についている。
できる 活用Ⅰ	日常的な話題および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れ、見方を広げたり、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしたりする態度が見受けられる。
わかる 習得	日常的な話題および社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりしようと試みることができる。	日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。	教科書を読んだり、内容について話し合う際に、多様な文化や考え方を受け入れたりと、他人と協力してより良い意見を作り出そうとしている。
風越高校の目指す学習者像	〔探究する人〕 〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕	〔思考できる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕	〔探究する人〕 〔振り返りができる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト)	定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

- ・教科書「BLUE MARBLE English Communication III」数研出版
- ・速読教材
- ・総合問題集

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- (1) 英語コミュニケーションⅡでのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な指導を踏まえ、様々な題材を扱う教科書や付属資料を用いて、英語を読むこと、聞くこと、話すこと(発表・やりとり)、書くことの活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、英語の知識理解、思考判断表現、主体的に学習に取り組む態度を育成します。
- (2) 教科書を読むだけでなく、教科書で話されていることについて英語で自分の考えを表現したり、英語でやり取りをすることもあります。そういった活動の中で、単元をより深く理解し、表現するための文法や単語を獲得することを目指します。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	38	Lesson1 A Chance for Everyone to Shine Lesson2 Protecting Our Brains from Smartphones
	5月		
前期 期末	6月	38	Lesson3 Wrapping: Reinventing a Cultural Tradition Lesson4 Paving the Way to a More Inclusive Society Lesson5 Discovering Your Answers Through Art Thinking
	7月		
後期 中間	10月	27	Lesson6 Super Sniffers Saving the World Lesson7 Perceptions of Time in Different Cultures Lesson8 The Thawing Permafrost: Earth's Warning Call
	11月		
後期 期末	12月	37	Lesson9 How We Are Influenced by Advertising Lesson10 What Makes a Virtual Community?
	1月		

科目 **実践英語**

授業時数 **2 単位**

履修学年 **3 学年**

目標 いままで学んできたコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、三つの領域別の言語活動および、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと」「書くこと」を中心とした発信能力を育成する

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	日常的话题や社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、正確に理解し、情報や考え気持などをより相手に伝わるように表現するための語句、文法や論理表現を身に着けることができる。	日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、ほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようとしたり、他者と協力してより良い方向へと議論を導き出すことができる。
	できる 活用Ⅰ	日常的话题や社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけている。	日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落からなる文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようとしたり、他者と協力してより良い意見を作り出すことができる。
	わかる 習得	日常的话题や社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけようとする。	日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。	様々な題材を取り扱う議論や討論を通して、英文の資料を聴いたり読んだり、相手の意見を聞いた際に、それらを踏まえて自分の意見を表現しようとしたり、他者と協力してより良い意見にたどり着こうとしている
風越高校の目指す学習者像	〔探究する人〕 〔知識のある人〕 〔広い視野を持つことができる人〕	〔思考できる人〕 〔コミュニケーション・コラボレーションできる人〕 〔挑戦する人〕	〔探究する人〕 〔挑戦する人〕 〔振り返りができる人〕	
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト)	定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述)	

■何で学ぶか [教材]

- ・「EARTHERISE 英語総合演習 実践ランダム編」数研出版
- ・「Bright Stage 英文法・語法問題」桐原書店
- ・英作文問題集 他
- ・「EARTHRISE English Logic and Expression III Standard」数研出版

・コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、教科書や付属教材の問題を通して、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする能力の向上を図ります。

・英語で自分の考えを表現する活動を遠して、ディスカッションやディベートの基本となる構文や表現を身につけます。自分の考えを表現するためには、高いレベルの語彙や文法が必要になります。そのため、論理表現IIで学習した語彙や文法を復習する時間も取りながら進めていきます。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	Unit1 Future of jobs in the AI era? Unit2 How have you grown as a person in your high school life?
	5月		
前期 期末	6月	16	Unit3 How do people use different types of media? Unit4 3R approach in order to save the environment Unit5 Moving toward a cashless society
	7月		
後期 中間	8月	16	Unit6 Are artificial additives really bad for us? Unit7 Japanese culture attracting people all over the world Unit8 Will we live in a decarbonized society in the future?
	9月		
後期 期末	10月	22	Unit9 Reading e-bokks or printed books? Unit10 The way we live together in the same world
	11月		
	12月		
	1月		
	2月		

科目 現代社会英語

授業時数 2 単位

履修学年 3 学年

目標

・実際に英語圏で発信されているニュース記事や報道番組に触れながら、英語での理解力を高める。
 ・グループディスカッション、プレゼンテーションやエッセイライティングなどで自分の意見を発信し、友人と共有することを通じて表現力を身につける。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
使える 活用Ⅱ	相手に伝わるエッセイを書いたり、わかりやすいプレゼンテーションを行うためのストラクチャーの立て方とそれを表現する英語力が身につけている。	わかりやすく正確な情報を発信するために、インターネットや書籍などの情報を分析し、自分の言葉で表現できる力が身につけている。	ALTや友人から得たアドバイスを参考にして完成度の高いエッセイやプレゼンテーションを目指すための姿勢が身につけている。
できる 活用Ⅰ	相手に伝わるエッセイを書いたり、わかりやすいプレゼンテーションを行うためのストラクチャーの立て方とそれを表現する英語力を発展させている最中である。	わかりやすく正確な情報を発信するために、インターネットや書籍などの情報を分析し、自分の言葉で表現できる力を発展させている最中である。	ALTや友人から得たアドバイスを参考にして完成度の高いエッセイやプレゼンテーションを目指すために努力する姿が見られる。
わかる 習得	相手に伝わるエッセイを書いたり、わかりやすいプレゼンテーションを行うためのストラクチャーの立て方とそれを表現する英語力が身につけようとしている。	わかりやすく正確な情報を発信するために、インターネットや書籍などの情報を分析し、自分の言葉で表現できる力が身につけようとしている。	ALTや友人から得たアドバイスを参考にして完成度の高いエッセイやプレゼンテーションを目指すための姿勢が身につけようとしている。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]	[探究する人] [振り返りができる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]
評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト)	定期考査 エッセイライティング プレゼンテーション ディベート	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(プレゼンテーションの自主的な取り組みや記述)

■何で学ぶか [教材]

・桐原書店「SKYWARD OCEAN Know the skills for effective reading」
 他英字新聞、ニュース番組など

高校での英語コミュニケーション学習の総仕上げとして、いくつかのテーマについてプロジェクト形式で取り組み、プレゼンテーションをすることが求められます。ALTとコミュニケーションを取りながらアドバイスなどを適宜もらい、完成度の高いプレゼンを目指すと同時に英語を操る喜びを感じられるようにしましょう。リサーチやパワーポイント作成など授業外での準備が多い授業であるため、計画的に進めていくことが大切です。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月 5月 6月	16	Foreign news and World news blog entry Appropriation and appreciation research
	7月 8月 9月	16	Issues surrounding Fast fashion Issues surrounding Fast fashion Smartphone addiction
後期 中間	10月 11月	16	Issues surrounding Fast fashion Smartphone addiction Indigenous peoples
	12月 1月 2月	22	Misconception Essay and presentation

科目 **速聴速読**

授業時数 2 単位

履修学年 3 学年

目標

- ・速いスピードのリスニングを行いながら、英語を英語の語順のまま理解できるようにする。
- ・速く正確に英文を読むことができるようにし、150wpm以上を目指す。
- ・読んだ内容について自分の意見を英語で論理的に伝え合うことができるようにする。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準「育ちのプロセス」 使える 活用Ⅱ	日常的な話題や社会的な話題の英文を読んだり聞いたりする際に、速いスピードであっても必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句など一定の支援を活用すれば、情報や自分の考えを話したり書いたりして、英語で論理的に表現することができる。	スキルアップのために、与えられた題材以外に多くの英文を読み、積極的に音読練習に取り組んでいる。ディスカッションでは日本語に頼らず意見を出し合い、協力して良い議論にしようとする態度が見られる。
できる 活用Ⅰ	日常的な話題や社会的な話題の英文を読んだり聞いたりする際に、標準的なスピードであれば必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句など多くの支援を活用すれば、情報や自分の考えを話したり書いたりして、英語である程度論理的に表現することができる。	スキルアップのために、与えられた題材以外の英文を読み、音読練習に取り組んでいる。ディスカッションでは多少日本語に頼りつつも意見を出し合い、協力して良い議論にしようとする態度が見られる。
わかる 習得	日常的な話題や社会的な話題の英文を読んだり聞いたりする際に、ゆっくりとしたスピードであれば必要な情報を得たり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句など多くの支援を活用すれば、情報や自分の考えを話したり書いたりして、英語で表現することができる。	与えられた題材を読み、音読練習に取り組んでいる。ディスカッションでは多くを日本語に頼りつつも意見を出し合い、議論しようとする態度が見られる。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [挑戦する人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人]	[探究する人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]
評価方法	定期テスト パフォーマンステスト ワークシート	定期テスト ディスカッション パフォーマンステスト ワークシート	ディスカッション パフォーマンステスト

■何で学ぶか [教材]

- ・『読んで聴いて速読力アップLR④, LR⑤』 いいずな書店
- ・News In Levels, BBC News等のウェブサイト

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・テキストを見ずにハイスピードで英文を聞き、設問に答える。
- ・時間を計ってテキストを読み、設問に答える。また、WPMを算出する。
- ・テキストを音読(オーバーラッピング/シャドウイング)し、録音した自分の音声を聞く。
- ・トピックについてペアでディスカッションを行う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	18	LR④ Lesson 1-15 News In Levels, BBC News, etc
	5月		
前期 期末	6月	17	LR④ Lesson 16-21 LR⑤ Lesson 1-5 News In Levels, BBC News, etc
	7月		
後期 中間	8月	18	LR⑤ Lesson 6-21 News In Levels, BBC News, etc
	9月		
後期 期末	10月	17	News In Levels, BBC News, etc
	11月		
	12月	17	
	1月		

科目 発展英語

授業時数 2 単位

履修学年 3 学年

目標

様々な題材の英文をできるだけ多く読むことを通して、英文を読むことに慣れたり、語彙や文法の獲得を目指す。また、全体の構成や主題を捉える練習を通して、長文読解の基礎を養成し、それを自らの気持ちを文章で表現することや、聞き手にわかりやすい表現をすることへ転用することを目指す。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準「育ちのプロセス」 使える 活用Ⅱ	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、正確に理解し、情報や考え気持などをより相手に伝わるように表現するための語句、文法や論理表現を身につけることができる。	日常的な話題や社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、支援をほとんど活用しなくても、文章の構成や段落の主題を素早く見つけることができ、英文の内容を正確に理解することができる。必要があれば、その英文について、自分の言葉で聞き手に説明することができる。	様々な題材を取り扱う英文を読むことを通して、わからなかったり、初めて出会った語彙や文法をわかるようにするのはもちろんのこと、常に新しいことを学ぶことに対して抵抗がなく、柔軟に自分を変えていける態度。また、自分の中で学びを完結することなく、わからない人に教えたり、協力して問題解決しようとしている。
できる 活用Ⅰ	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけている。	日常的な話題や社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、支援を活用すれば、文章の構成や段落の主題を素早く見つけることができ、英文の内容を正確に理解することができる。必要があれば、その英文について、自分の言葉で聞き手に説明することができる。	様々な題材を取り扱う英文を読むことを通して、わからなかったり、初めて出会った語彙や文法をわかるようにする態度。また、自分の中で学びを完結することなく、わからない人に教えたり、協力して問題解決しようとしている。
わかる 習得	日常的な話題や、社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、情報や考え気持などを表現するための語句や文法を身につけようとする。	日常的な話題や社会的な話題について読んだり聞いたりしたときに、多くの支援を活用すれば、文章の構成や段落の主題を素早く見つけることができ、英文の内容を正確に理解することができる。必要があれば、その英文について、自分の言葉で聞き手に説明することができる。	様々な題材を取り扱う英文を読むことを通して、わからなかったり、初めて出会った語彙や文法をわかるようにしたいと思っている。また、自分の中で学びを完結することなく、わからない人に教えたり、協力して問題解決してみたいと考えている。
風越高校の目指す学習者像	[探究する人] [知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーションできる人] [挑戦する人]	[探究する人] [挑戦する人] [振り返りができる人]
評価方法	定期考査 パフォーマンステスト	定期考査 パフォーマンステスト	定期考査 パフォーマンステスト

■何で学ぶか [教材]

英語長文問題集 Cutting Edge yellow
和訳教材

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

・初めは比較的優しめで、様々な題材を扱った英語長文に関する問題を解いていきます。さらに、文法事項を復習するための問題を解いていきます。それらを通して、1, 2年生の時に学習したけれど忘れてしまった語彙や文法を網羅的に復習することを目指します。

・その後レベルの高い英文を読み、たとえその英文が今すぐ読めなくても、あきらめず何とかしようと語彙や文法や文章の構造を学ぶことを通して、やり抜く力やしなやかに自分を変えていく力を養うとともに、あなた自身の英語のレベルアップにつながることを目指します。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	16	Unit1
	5月		Unit2
	5月		Unit3
	5月		Unit4
6月	Unit5		
6月	Unit6		
6月	Unit7		
6月	Unit8		
前期 期末	7月	16	Unit9
	8月		Unit10
	8月		Unit11
	9月		Unit12
	9月		Unit13
後期 中間	10月	16	・英文読解演習
	11月		
	11月		
後期 期末	12月	22	・英文読解演習
	1月		
	2月		

科目 **アカデミックスキル（3年次）**

授業時数 2 単位

履修学年 3 学年

目標

- ・自身の内面を深め、自分が学びたいことと海外進学がどのようにつながっているのかを理解する。
- ・海外大学での学びや、出願方法等についての知識を身につける。
- ・出願時や入学後の学業に必要な英語力や論文作成スキル等を身につける。

■どのような力を、どのレベルまで身につけるのか [めざす能力とその次元]

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準「育ちのプロセス」	使える 活用Ⅱ	海外大学での学びや出願方法等についての知識を身につけ、自らの学びや進路と結び付けて考えられる。また、出願時や大学での学業に必要な英語力や論文作成等の技能を身につけており活用することができる。	調べて得た内容を多面的に分析・考察し、他者と協力し合い、わかりやすく発表できる。また、論題について自分の考えを英語・日本語で論理的に表現することができる。	自身の内面を深める活動に主体的に取り組む、考えを他者と伝え合ったり、様々な問題の解決策を考えることで、学びの目的と海外進学とのつながりを理解しようとする態度を身につけている。
	できる 活用Ⅰ	海外大学での学びや出願方法等についての知識を身につけている。また、出願時や大学での学業に必要な英語力や論文作成等の基礎的な技能を身につけており、ある程度活用することができる。	調べて得た内容を分析・考察し、他者と協力し合い、聞き手を意識して発表できる。また、論題について自分の考えを英語・日本語である程度論理的に表現することができる。	自身の内面を深める活動に主体的に取り組む、考えを他者と伝え合うことで、自分の学びの目的と海外進学とのつながりを理解しようとする態度を身につけている。
	わかる 習得	海外大学での学びや出願方法等について基本的な知識を身につけている。また、出願時や大学での学業に必要な英語力や論文作成等の基礎的な技能を身につけている。	調べて得た内容を整理し、他者と協力し合い発表できる。また、論題についての自分の考えを英語・日本語で表現することができる。	自身の内面を深める活動に主体的に取り組む、学びの目的と海外進学とのつながりを理解しようとする態度を身につけている。
風越高校の目指す学習者像	[知識のある人] [広い視野を持つことができる人]	[思考できる人] [コミュニケーション・コラボレーション(協働)できる人]	[探究する人] [振り返りができる人]	
評価方法	エッセイライティング プレゼンテーション発表	エッセイライティング プレゼンテーション発表 ディスカッション	エッセイライティング プレゼンテーション発表 ディスカッション	

■何で学ぶか [教材]

- ・「はじめてのIELTS 全パート総合対策」 アスク出版
- ・英字新聞、ニュース番組、TED、英語論文、志望大学の出願に必要なエッセイなど

■どのように学ぶか [授業の方法/学び方]

- ・他者との対話やワークショップなど、自分の内面を深める活動を通して、自分の学びたい分野を絞る。
- ・現役海外留学生との交流や、各大学HP、留学情報誌を通して、海外進学についての知識を得る。
- ・エッセイの読解やライティング、ディスカッションを通して、進学後に必要となるエッセイライティングの力やスピーキングスキルを養う。
- ・志望大学が決定した場合、実際の出願に向けてエッセイ作成等の準備を行う。

■いつ、何を学ぶか [学習内容]

		時数	学習内容
前期 中間	4月	18	<u>TT</u> ノートテイキング・ディスカッション アウトライン(テキストや英語講義をまとめる)・ディスカッション オンラインレクチャー(TEDなど)・ディスカッション
	5月		<u>JTE</u> 自分史作成・自己分析 留学フェローシップサマーキャンプ課題論文
	6月		海外の大学について知る
前期 期末	7月	17	<u>TT</u> モノローグ TOEFL/IELTS対策 パーソナルステイトメントプレゼンテーション
	8月		<u>JTE</u> 海外の大学について知る 課題論文作成(夏季休暇)
	9月		自分史作成・自己分析 パーソナルステイトメントプレゼンテーション
後期 中間	10月	16	<u>共通</u> 出願エッセイ準備 アドミッションリサーチ TOEFL/IELTS対策
	11月		<u>TT</u> モノローグ ディスカッション
	12月		<u>共通</u> 出願エッセイ準備 TOEFL/IELTS対策
後期 期末	1月	19	<u>TT</u> モノローグ エッセイライティング
	2月		